



新国会 櫻田基介 議員

## さんむ医療センターについて

**問**▶▶▶ さんむ医療センターの建設について、市長の思いを伺います。

**答**▶▶▶ 市長 地域の中核病院として、市民の安心を守るために必要不可欠であると認識しています。建設に当たっても透明性を保ち、信頼される病院を目指していきます。

**問**▶▶▶ 入院ベッド数の10%以上削減に取り組む病院には、補助金を創設するとの報道があるが、新病院の病床数について伺います。

**答**▶▶▶ 保健福祉部長 県の地域医療構想における必要病床数は、急性期病床の需要が減り、回復期病床の需要が増えるの見込まれています。今後の入院患者数を想定し、199床へ減少させる計画です。

病床別では、一般急性期病床を減少させ、回復期機能を担う回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病床および圏域内に1病床しかない緩和ケア病床は、病床数を維持します。補助金については、国で要綱等を策定中と聞いています。

**問**▶▶▶ 新病院の機能について伺います。

**答**▶▶▶ 保健福祉部長 特に住民の高齢化の進展、開業医の高齢化・減少等も見据えたコミュニティ・ホスピタルとして、在宅医療、訪問看護等を強化する必要があると考えます。

既存の回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病床の充足を図り、機能回復のための利用を提供していきます。また、24時間、365日体制の往診や、訪問看護を目指すことで、退院後の在宅医療の推進を図り、切れ目のない医療の提供を推進します。

救急医療については、管外搬送が再び増えることのないよう、三次救急病院等との連携・協力のもと、必要な二次救急医療の提供に努めます。

**問**▶▶▶ 新病院の経営戦略について伺います。

**答**▶▶▶ 保健福祉部長 機能強化型在宅療養支援病院は、200床未満の病院が指定取得できます。指定取得すること、診療報酬の各種加算により、約5千万円の増収が見込まれます。

**問**▶▶▶ 今後、基本設計、実施設計を

実施していくが、建替・新築にあたり、現在働く職員の意見を聞き、反映しているか伺います。

**答**▶▶▶ 保健福祉部長 ヒアリングを実施して、職員の意見を聞いています。病院職員の新病院建設に向けての気運醸成が何より肝要と考え、先進地視察等を実施するとともに、各部門の主体的取り組みを促しています。

**問**▶▶▶ 新病院建設に伴う概算予算事業費95億3千万円のうち、病院本体の建設工事費は6億8600万と聞いています。建設工事は、実績のある事業者を選定し、発注すべきと思うが、地域活性の意味でも、市内事業者にも配慮すべきだと考えるがどうですか。

**答**▶▶▶ 保健福祉部長 準備を整え、病院建設を進めたいと考えています。仕様書には市内事業者を活用してもらうよう、留意します。

**問**▶▶▶ プロポーザル方式(企画・提案から選定)による設計・施工者を選定するにあたり、業務仕様書の作成をコンサルティング会社に発注したと聞きました。業務内容について伺います。

**答**▶▶▶ 保健福祉部長 基本設計からの、設計・施工一括発注のデザインビルド方式(設計と施工を一体の業務として発注)を実施するにあたり、各部署の面積検討、設備検討、院内各部署

とのヒアリング等を実施して、仕様書を作成しています。

**問**▶▶▶ 住民説明会を実施し、地権者へ、新病院の概要説明、境界立ち会いを実施したが、用地が問題なく取得できるか伺います。

**答**▶▶▶ 保健福祉部長 土地の取得についてはご理解いただけるよう、慎重に進めたいと考えています。

**問**▶▶▶ 市民へ幅広く説明する機会を設ける予定はあるか伺います。

**答**▶▶▶ 保健福祉部長 基本設計が完了後に、説明会を実施する予定です。

**問**▶▶▶ 医学生・看護学生奨学金について、新病院移転建設の発表後に初めての募集を実施していると聞きました。申し込み状況について伺います。

**答**▶▶▶ 保健福祉部長 医学生奨学金の応募は、現在申し込みがありません。看護学生奨学金は22名の応募があり、前年度より10名多く、新病院で働きたいと言う方が多いと思われます。



ホスピタルアートが施されたさんむ医療センター内